

伝統文化と町並み風情を生かし

誰もが暮らしやすく にぎわいのあるまち

福島校区地域振興計画



平成 29 年 3 月

福島校区まちづくり協議会



目次

1. はじめに	1
～地域振興計画策定の経緯～	
2. 福島校区の概況	2
(1) 位置・地勢	
(2) 人口・世帯の動向	
3. 福島校区の現状と課題	4
(1) アンケート調査の結果	
(2) 各行政区や団体の抱える課題	
4. まちづくりの基本方針	9
(1) 福島校区の将来像	
(2) 基本方針	
5. まちづくりの主要施策	10
(1) 安全で快適な生活空間の創造をめざすまちづくり	
(2) 歴史文化と町並みを育み、地域資源を生かした活気のあるまちづくり	
(3) 誰もが安全・安心で、支え合い助け合いができるまちづくり	
6. 付属資料	13
・ 地域振興計画策定の経過	
・ 策定委員名簿	

1. はじめに

～地域振興計画策定の経緯～

地域を取り巻く環境の変化と住民のニーズや価値観の多様化・複雑化に伴い、人と人とのふれあいや近所づきあいなどが年々希薄になりつつあります。一方では住環境問題や中心部の空洞化、少子高齢化問題、災害対策などといった様々な地域の課題が出てくる中で、これらに対応し私たちの地域をより美しく安全に安心して暮らせるまち、活気のあるまちにするためには、行政や企業などをお願いするだけでなく、住民自らが行動をおこすことが重要だということから、今回福島校区まちづくり協議会（※1）において八女市の「地域づくり提案事業（※2）」を活用した「福島校区地域振興計画（※3）」を策定いたしました。

この計画は平成27年9月から1年6ヶ月の期間をかけて、アンケートによる住民意識調査、福島校区の23行政区や諸団体の抱える課題の掘り起し、校区内の現場調査、まちづくり先進地の視察などの取り組みの結果を踏まえ、三つの部会での議論を重ねて策定したものです。

今後、この「地域振興計画」に基づく取り組みについては「まちづくり協議会」を中心に、地域の皆さんの理解と協力を仰ぎながら活動を進めてまいりますので、一人でも多くの方が参加していただきますようお願いしております。

※1－福島校区まちづくり協議会

行政区と各種団体が力を合わせて共通の問題解決を図り、住み良い地域社会の構築を目指し、自主的・主体的に地域活動を行うことを目的とした組織。

構成は行政区長会、自治公民館長会、民生・児童委員会、福小PTA、福中PTA、子ども会育成会、やめ女性の会、老人クラブ、消防団第1分団。現在八女市には21の同種の組織が活動しています。

※2－八女市地域づくり提案事業

地域コミュニティの維持並びに地域の再生および活性化の推進を目的とした企画提案を地域団体から募集し、市の地域づくりに寄与すると判断される提案を実践する団体に対し事業助成金が交付されるもので、あらかじめ策定された地域振興計画に定める住環境の整備・保全や地域振興、地域の活性化、健康づくり、防災、高齢者支援など幅広い分野の活動が助成の対象となります。

※3－地域振興計画

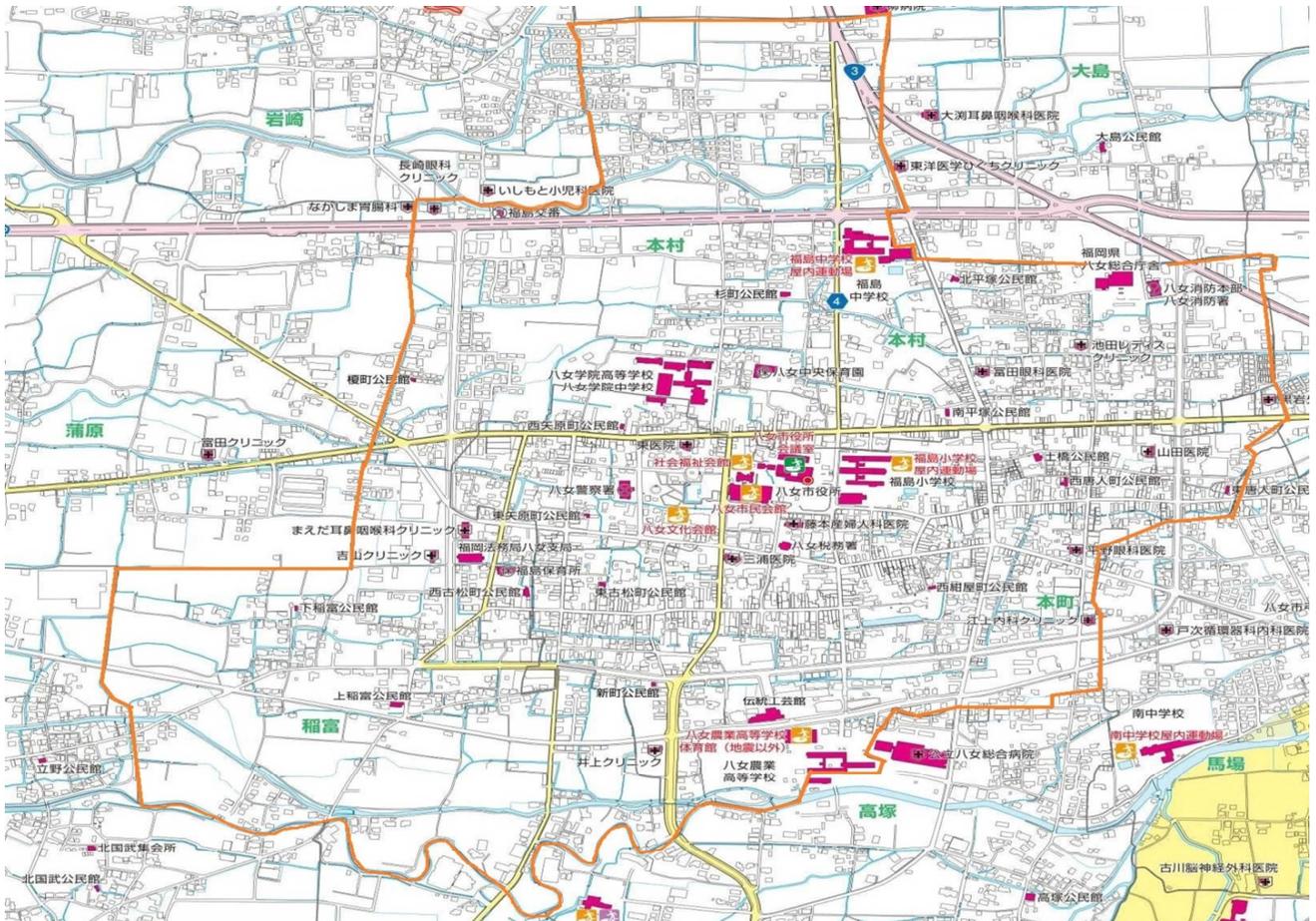
まちづくり団体が区域の現状や課題を明らかにし、将来のあるべき姿や理想とする地域像を定め、その実現に向けた基本方針および具体的活動を定めるもので、計画期間は概ね平成29年～38年度の10年間。また本計画は状況の変化に応じて随時見直していきます。

2. 福島校区の概況

(1) 位置・地勢

- 福島校区は八女市の中心部に位置し、北に山の井川、南に花宗川が流れ、平坦地に広がる地域で、中心部は市街地で構成され、公共施設、商店、家屋が連担しており、周辺部には農地も点在しています。
- 福島地区は16世紀末の福島城築城に端を発して形成された城下町で、城の廃絶後も周囲の豊かな農産物の集積地として、また地場産の資源を活用した伝統工芸品の生産地として独自の商工業市街地を形成しながら、八女地方の政治・経済・文化の中心地として発展してきました。
- 昭和期の道路網の整備と公共交通機関の発達に伴い、中心部にはバスターミナルが設置され、商店街も形成されるなど八女地方の経済活動の拠点として栄えてきましたが、近年のモータリゼーションの進展と国道のバイパス化に伴う住民の消費行動の変化などにより、一部中心商店街の空洞化が進行しています。
- 一方で、中心部の由緒ある町並みが「重要伝統的建造物群保存地区」に指定されるとともに、町なみ保存会をはじめとして、古い町並みや伝統工芸の継承、にぎわいの復活などをめざすグループの活動や、水路の浄化など環境保全に取り組む活動も進められています。

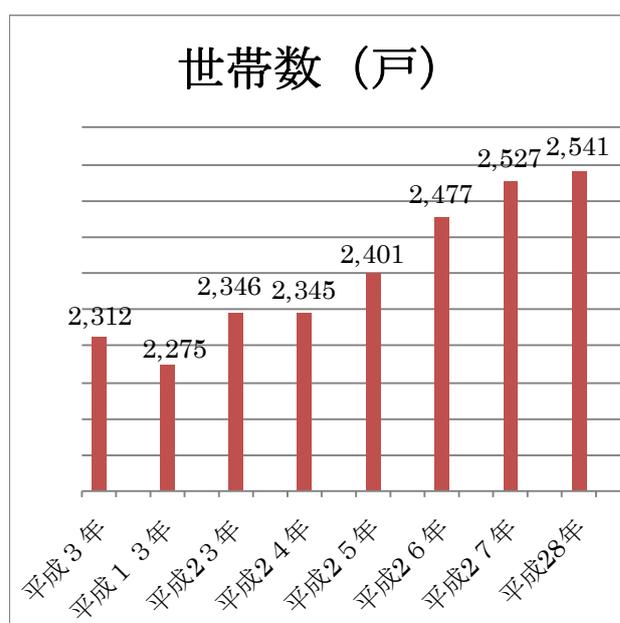
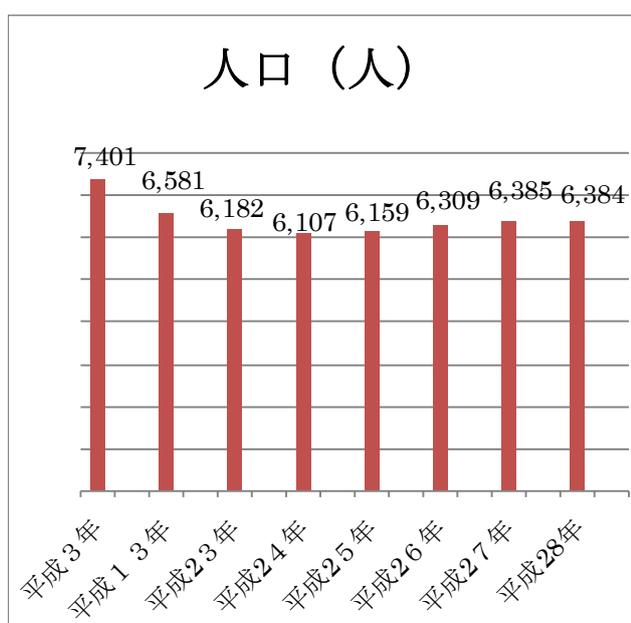
≪福島校区の地図≫



(2) 人口・世帯の動向

人口・世帯数の推移

福島校区		平成3年 4月1日	平成13年 4月1日	平成23年 4月1日	平成24年 4月1日	平成25年 4月1日
人口	男	3,425	3,012	2,802	2,765	2,767
	女	3,976	3,569	3,380	3,342	3,392
	合計	7,401	6,581	6,182	6,107	6,159
世帯数		2,312	2,275	2,346	2,345	2,401
福島校区		平成26年 4月1日	平成27年 4月1日	平成28年 4月1日	※住民基本台帳より	
人口	男	2,855	2,905	2,898		
	女	3,454	3,480	3,486		
	合計	6,309	6,385	6,384		
世帯数		2,477	2,527	2,541		



- (1) 福島校区の人口は、近年減少と増加を繰り返しながら横ばいの状態で推移しています。平成28年4月1日現在では、6,384人となっていますが、平成3年4月1日と比較すると、男性は527人減(84.6%)、女性は490人減(87.7%)、合計で1,017人減(86.3%)と、いずれも減少しています。
- (2) 年齢層の構成は、60歳代が最も多く、65歳以上の高齢人口構成比は29.34%になっていますが、市全体(32.72%)と比べると低くなっています。ただ、福島校区23行政区間にも差があり、高齢化率が最も高い行政区は48.81%で、最も低い行政区では21.71%となっています。
- (3) 福島校区の世帯数は、人口とは逆に増加傾向となっており、平成28年4月1日現在では、2,541戸となっています。同じく平成3年4月1日と比較すると、229戸増(109.9%)となっています。

3. 福島校区の現状と課題

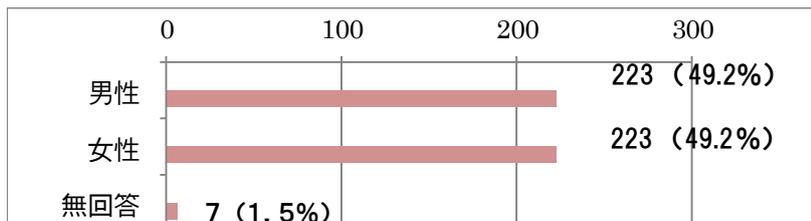
(1) アンケート調査の結果

◆アンケート調査の概要

調査時期	◆平成28年6月
調査対象	◆23行政区及び行政区外の団体を含めた合計519件
調査方法	◆行政区長により直接配布及び回収
配布数	◆519件
回収数	◆453件
回収率	◆87.3%
主な調査内容	◆回答者の性別及び年齢 ◆福島校区の暮らしや環境の満足度について ◆大切にしていきたい福島校区の良さについて ◆福島校区にとっての課題について

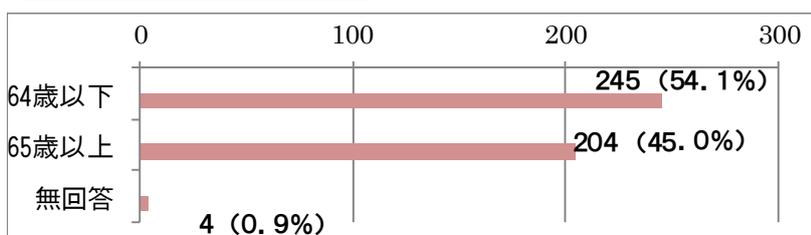
(注) 割合の数字は四捨五入しているため、合計は100.0%にならない場合があります。

性別 回答数 453



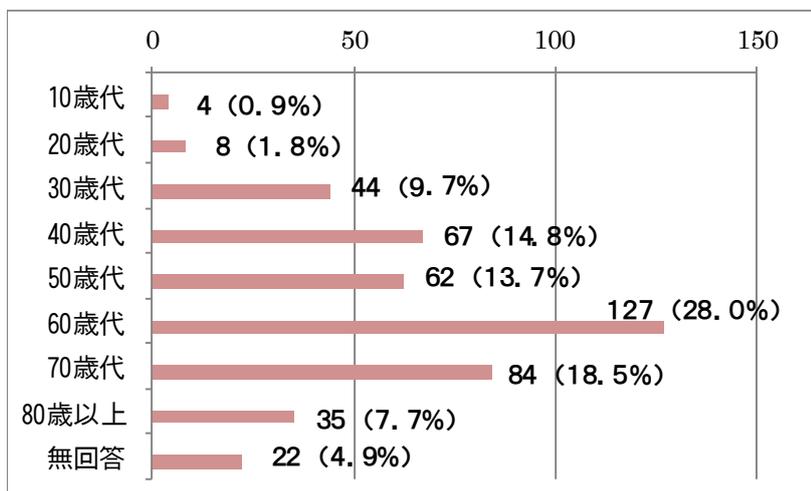
※男性、女性とも同数の回答数となっています。

年代別① 回答数 453



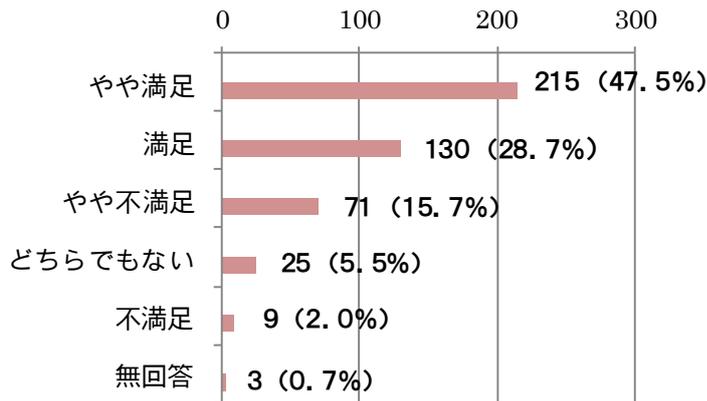
※回答者のうち、64歳以下の回答が54.1%、65歳以上の回答が45.0%となっています。

年代別② 回答数 453



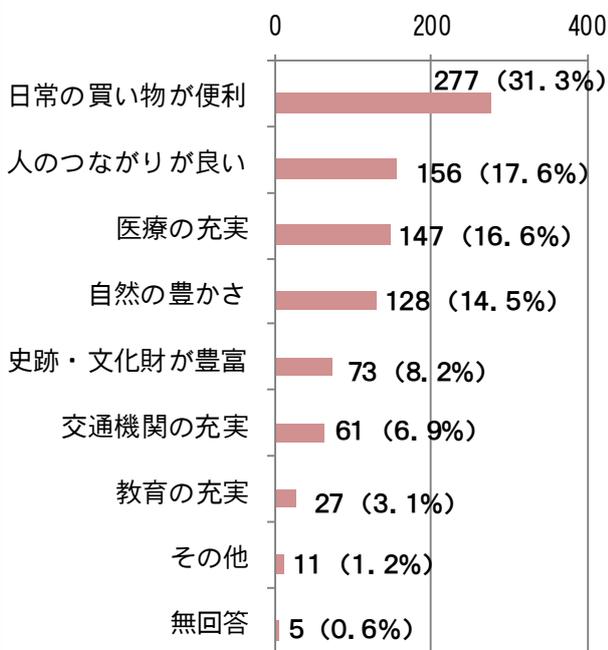
※回答者の年代別では、60歳代の回答が最も多く28.0%、次いで70歳代が18.5%となっており、60歳以上の回答数は58.7%となっています。ただし、60歳代127人中、52人が64歳以下、75人が65歳以上となっています。

暮らしや環境に満足しているか 回答数 453



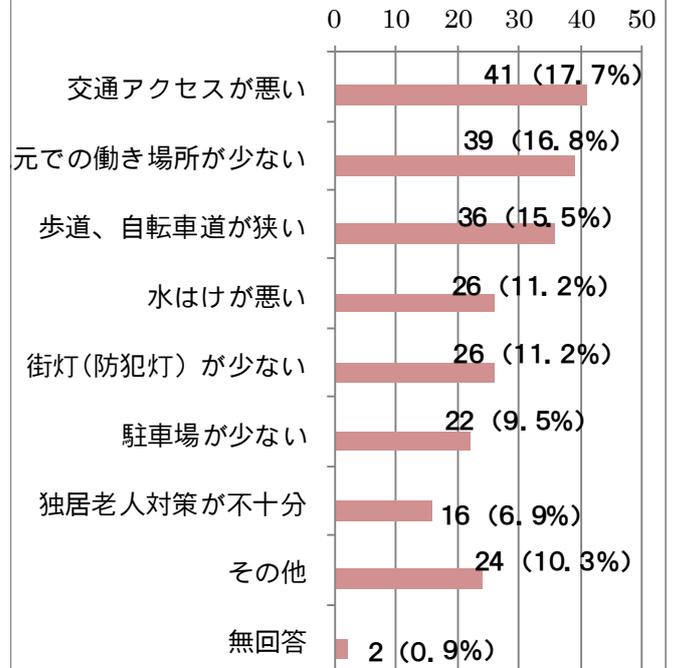
※≪暮らしや環境に満足しているか≫の問に対し、「満足」「やや満足」が全回答数の76.2%となっており、8割近くの方が満足と答えています。また、「やや不満足」「不満足」の合計回答は17.7%となっています。

「満足」「やや満足」に回答した方の理由 回答数 885 (複数回答)



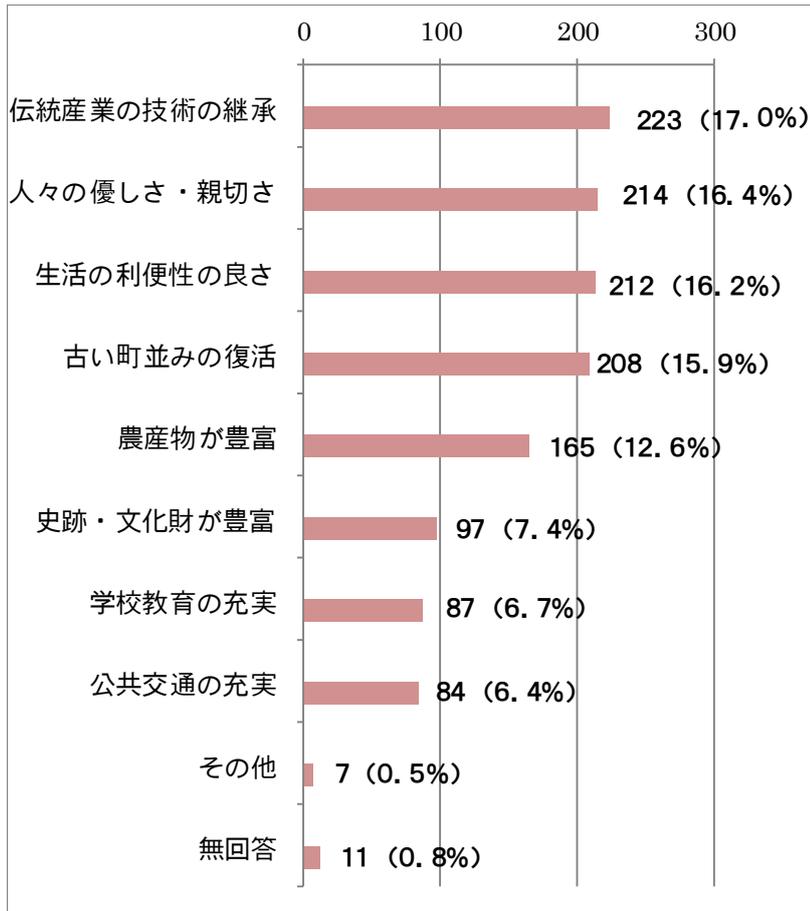
※≪暮らしや環境に満足しているか≫の問に対し、「満足」「やや満足」と答えている方の最も多い理由は、「日常の買い物が便利」31.3%で、次いで「人のつながりが良い」17.6%となっています。3番目には、「医療の充実」16.6%、4番目には、「自然の豊かさ」14.5%と続いています。

「やや不満足」「不満足」に回答した方の理由 回答数 232 (複数回答)



※≪暮らしや環境に満足しているか≫の問に対し、「やや不満足」「不満足」と答えている方の理由は、「交通アクセスが悪い」17.7%が一番多く、次いで「地元での働き場所が少ない」16.8%となっています。3番目は、「歩道、自転車道が狭い」15.5%、4番目には、「水はけが悪い」と「街灯(防犯灯)が少ない」が同数で11.2%となっています。

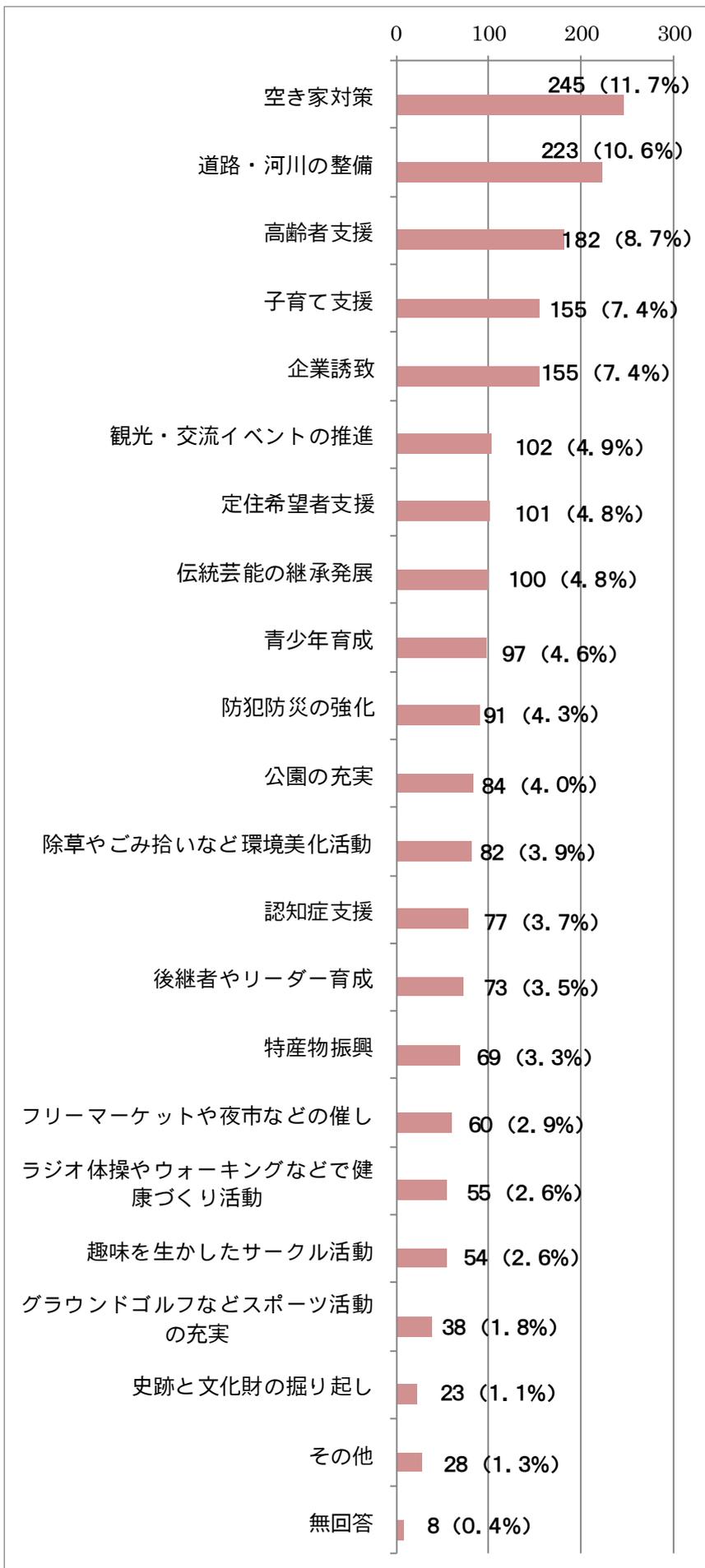
大切にしていきたい福島校区の良さ 回答数 1,308 (複数回答)



※「大切にしていきたい福島校区の良さ何ですか」の問いに対し、回答数的には、それほど差はありませんが、最も多い回答は、「伝統産業の技術の継承」17.0%、2番目が「人々の優しさ・親切さ」16.4%、3番目が「生活の利便性の良さ」16.2%、4番目が「古い町並みの復活」15.9%となっています。



福島校区にとって今後の課題 回答数 2,102 (複数回答)



※≪福島校区にとって今後の課題は何ですか≫の問いに対し、最も多い回答は「空き家対策」11.7%、2番目が「道路・河川の整備」10.6%で、いずれもハード面に重きを置いた課題とされます。3番目に多い回答は「高齢者支援」8.7%、4番目は「子育て支援」7.4%となっており、どちらかと言えばソフト面への課題提起とされます。また、同じく4番目には同数で「企業誘致」7.4%が続いています。

◆自由意見で多かったもの

◇河川や掘の浄化、大雨対策に関するもの	13件
◇色々な遊びや運動ができる多目的グラウンドの整備を求めるもの	12件
◇空き家、空き店舗対策に関するもの	11件
◇道路の安全対策、大雨対策に関するもの	9件
◇企業誘致など若者が市内に残れるような対策に関するもの	9件
◇街灯の設置を求めるもの	7件
◇独居老人など高齢者対策に関するもの	6件
◇駐車場の増設に関するもの	6件
◇街中に人が集まるスペースを求めるもの	4件
◇運動会などのスポーツイベントを求めるもの	3件
◇お祭りのボランティアの育成に関するもの	3件

(2) 各行政区や団体の抱える課題

策定委員会では各行政区および諸団体にそれぞれの抱える問題や取り組みたい課題を出してもらい(77項目提出)、問題となっている現場の調査も行いながら作業部会で分析・検討を行い、課題を「住環境の整備・景観保全」「特産物振興・地域活性化」「各世代対策・防災・健康づくり」の三つの分野に整理しました。

①住環境の整備・景観保全

◇河川、川岸、掘の整備や美化に関するもの	15件
◇道路の整備や美化に関するもの	9件
◇公園の整備や美化に関するもの	4件
◇その他	3件

②特産物振興・地域活性化

◇町並みの保全・活性化に関するもの	5件
◇空き家、空き店舗の有効活用に関するもの	5件
◇伝統工芸の継承発展と後継者育成に関するもの	3件
◇燈籠人形の支援に関するもの	3件
◇その他	2件

③各世代対策・防災・健康づくり

◇高齢者やしょうがい者支援に関するもの	10件
◇消防団や自主防災に関するもの	8件
◇子ども会など若年層の支援に関するもの	5件
◇その他	5件

4. まちづくりの基本方針

(1) 福島校区の将来像

「伝統文化と町並み風情を生かした 誰もが暮らしやすく にぎわいのあるまち」

(2) 基本方針

①安全で快適な生活空間の創造をめざすまちづくり

中心拠点としてハード面の整備拡充により、福島校区民はもとより誰もが魅力を感じる生活空間づくりをめざします。

②歴史文化や町並みなどの、地域資源を生かした活気のあるまちづくり

風情ある伝統文化と町並みを地域資源として活用し、人々が集うにぎわいのあるまちづくりをめざします。

③誰もが安全・安心で、支え合い助け合いができるまちづくり

老若男女、世代を超えた地域交流で、安全・安心の環境整備と相互扶助の精神が宿るまちづくりをめざします。

5. まちづくりの主要施策

(1) 安全で快適な生活空間の創造をめざすまちづくり

①河川・水路・掘等の環境保全の推進

- ◆悪臭防止・景観保持・洪水対策等のため、ごみや汚泥の除去、草刈り等の清掃作業を計画・実施します。
- ◆危険性や美観・衛生面で問題のある個所を調査し、関係機関へ対策を要望します。

②道路環境の改善

- ◆環境美化のため、散乱ごみ収集や除草・花の植栽などの活動を計画・実施します。
- ◆狭くて危険な道路や大雨時の氾濫、防犯灯の未設置等、安全面で問題のある個所を調査し、関係機関へ対応を要請します。

③公園の整備促進

- ◆公園の清掃を計画・実施します。
- ◆多目的に活用できる公園の整備について市へ要望します。

(2) 歴史文化や町並みなどの、地域資源を生かした活気のあるまちづくり

①町並みの継承と発展

- ◆町並み保存を進める団体と連携し、歴史的建造物の保存意義や町並み景観への啓発活動を進めるとともに、校区内外から人が集まるようなイベントを企画・実施します。
- ◆福島地区のPRを進め、「福島ブランド」の再構築を図るため、歴史的なスポットの案内板、マップ、パンフレットなどを作成します。

②空き店舗、空き家対策

- ◆現在活動中の諸団体と連携しながら、空き店舗の活用を促進し、中心部の活性化を図ります。
- ◆周辺部の空き家の状況を調査し、安全確保のための対策を関係機関へ要請します。

③伝統産業の継承発展

- ◆町並み保存と連携したイベントなどの事業を企画・実施します。
- ◆後継者育成事業を企画・実施します。

(3) 誰もが安全・安心で、支え合い助け合いができるまちづくり

①ふるさと夏祭りの継承・発展

◆定着化しつつあるふるさと夏祭りの一層の充実化を図ります。

②多世代交流イベントの企画・実施

◆住民が気軽に集い、相互交流や学習のできる場所と機会を提供します。

◆お年寄りと子どもなど世代を超えた交流のできる行事を企画・実施します。

③地域づくり人材育成事業

◆健康づくり、防災、料理、ガーデニング、写真、旅行等々、様々な分野の知識や技術を提供できる人材の掘り起しと地域づくり人材バンク（仮称）への登録を進めます。

◆多様な分野の指導者育成講習会を企画運営します。

④一人暮らしの高齢者支援

◆行政区長・民生児童委員と連携して、独居老人世帯の実情を把握し、有効・適切な事業を研究・企画・実施します。

付 属 資 料

1. 地域振興計画策定の経過
2. 福島校区地域振興計画策定委員名簿

福島校区地域振興計画策定経過

開催日	会議名等	内容等
平成27年度 6月1日	まちづくり協議会代表者会議	・福島地区の「地域振興計画」を策定することを確認
10月14日	まちづくり協議会代表者会議	・計画策定に向けた大枠の検討および地域振興計画策定委員会（以下策定委員会）の設置を確認
10月21日	第1回策定委員会	・代表者ほか役員の選出および今後の作業の進め方を確認
10月29日	八女市地域づくり提案事業申請	・市へ地域づくり企画提案書提出
11月4日	第2回策定委員会	・各行政区や団体から提出された「各町内・団体の課題や問題点」「福島地区の活性化対策」（77点）を分類検討。 ・「居住環境」「伝統・文化」「各世代対応・防災」の3作業部会の設置を確認
11月24日	八女市地域づくり提案事業交付金内示通知	・H27年度8万円 ・H28年度22万円
11月27日	第3回策定委員会	・計画策定の意義、他地区の策定状況等について市からの説明 ・3部会毎に計画策定に向けた意見交換会
12月17日 ～18日	部会会議	・3部会毎に、地区の現状および課題に関する意見・情報交換
12月24日	八女市地域づくり提案事業採択通知	・地域振興計画策定採択
1月30日	先進地視察研修	・日田市豆田地区 13名参加
2月19日	第4回策定委員会	・先進地調査の概要報告 ・部会毎の福島地区内現地調査の日程・ルートの検討協議
2月～3月	福島地区内の現地調査	・部会毎に現地調査
3月16日	第5回策定委員会	・福島地区内現地調査の報告、討議 ・アンケートの内容について検討

平成28年度 4月 8日	第6回策定委員会	・アンケートの規模、項目等を検討
5月20日	第7回策定委員会	・アンケートの内容確認、今後の取り組みを検討
5月～6月	アンケート実施	・回収数453件
9月21日	第8回策定委員会	・アンケートの結果分析および各部会毎に計画課題の検討について開始
10月14日	第9回策定委員会	・今後の作業の進め方について検討。部会毎の討議を継続
11月16日	第10回策定委員会	・計画の基本方針の検討、部会毎の討議を継続
12月16日	第11回策定委員会	・具体的な施策の検討
1月13日	第12回策定委員会	・振興計画案の検討
2月10日	まちづくり協議会および策定委員会合同会議	・地域振興計画素案検討
3月	地域振興計画製本印刷	



保存版

「今後 10 年、まちづくり協議会の指針となります。まちづくり協議会活動に活用をお願いします。」

福島校区地域振興計画

企画・編集 福島校区まちづくり協議会

福島校区地域振興計画策定委員会

平成 29 年 3 月 発行

この計画書は八女市地域づくり提案事業として、市の補助金を受け作成しました。